



発行 特定非営利活動法人 NPO ぽぽハウス  
〒522-0043 彦根市小泉町 300-9 サンロードビル 2F  
(TEL) 0749-27-9777, 21-0664 (FAX) 27-9888  
E-mail popohouse@nifty.com

ボランティア・  
スタッフ募集しま～す

NPO ぽぽハウスには、いろいろな職種のスタッフが活動しています。  
高齢者デイサービスや児童デイサービスを  
支えるひろば担当スタッフ、調理を担当す  
るスタッフ、利用者の送迎等を担当する車  
輦部スタッフ、訪問介護を担当する登録の  
ヘルパースタッフ。



NPO ぽぽハウスは「誰もが「生きていてよかった」  
といえる街づくり」のミッションに共感し困ってい  
る人のために、何か手助けできることはないか...と  
いう思いを抱くスタッフによって動いています。  
あなたも、あなたの時間の中で活動しませんか？



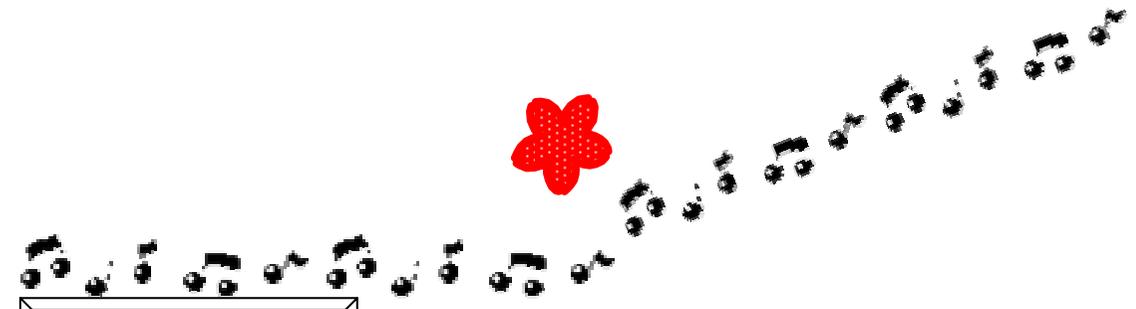
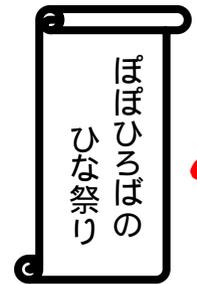
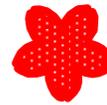
詳細はお問い合わせくださいね・・・  
是非いっしょに活動しましょう!!

【誰もが「生きていてよかった」といえる街づくり】

# ぽぽだより



2007年 3月号



ヘルパー部の研修

ぽぽハウスのヘルパーはこのような研修  
をして、皆様のお宅へお伺いしてます。  
ガンバっています!!

Voice Voice Voice Voice Voice Voice Voice Voice Voice

こんにちは。

とある所で<ぽぽだより>を拝見する機会があり、時々読  
ませていただいています。

お年寄りや子ども達が楽しく過ごせる「ぽぽひろば」は、  
核家族でしか暮らした事のない私には理想です。私の子  
育て真最中の時にも「ぽぽひろば」があればよかったのに  
...と残念に思います。

でも 2~30 年後、おばあちゃんとして「ぽぽひろば」に通  
ってるかも。

それまで皆さんがんばって下さい。

【 ぽぽだよりの読者 M・K 】

お便りください。お待ちしております! ~編集部より~

Voice Voice Voice Voice Voice Voice Voice Voice Voice

読者  
から  
のお  
た  
よ  
り

後記 たんぽぽが一齐に咲き始める春に、ぽぽハウスの私達も(☺)で設立 9 年目の活動に歩  
みだします。春風によって軽やかに着実に一步一步。皆さまのさらなるご支援を願  
いします。

(特活)NPO ぽぼハウスが彦根市北老人福祉センターの指定管理者となり、私が館長に就任し、まもなく一年が経ちます。開館・閉館の準備・館内の室温調整、お風呂の湯温調整、ボイラー管理等々...初めての事だらけの毎日で、今思うと4月から6月位までは、どのように日々過ごしてきたのか覚えがありません。そんな中ご利用者の

皆様から、施設運営に際し親身に助言やアドバイス、以前の管理・運営の様子をお話し下さるなど、いろいろ助けていただいております。当センターの設置目的のひとつである「異世代交流」については、自分の祖父母でない高齢者と、また自分の孫・子でない若い方々とがセンター内でお互いの存在を目にすることからそれぞれの年代を理解してもらえ第一歩ではないかと寄り添

える事業をいろいろ暗中模索してます。今日ではセンターの事業にも興味を持って多くのご意見・ご提案を頂くなどしており、(特活)NPO ぽぼハウスの想いである「市民が創る市民の施設」に成りつつある施設だと感じています。

館長 福井久美子



1年間を  
振り返って

ぽぼクラブでは親子でふれ合う事を大切に、いろいろな活動をしてきました。

たんぽぽ組(2~3歳)では天気の良い日には子どもセンターで砂の山にトンネルを掘り道をつなげて大きな町を作ったり、虫や木の実に直接触れ自然の中でたっぷり遊びました。毎回行う「ヨーイドン」ではお母さんやおばあちゃんに向かって嬉しそうに走って、いってギュッと抱きしめてもらおうと自然に笑顔になり心も体もポカポカしてきます。

ひまわり組(3~4歳)では、コックさんに変身し、ハヤシライス、豚汁、餃子作りを楽しみました。お米を研ぐ事から始め野菜の皮むきやお母さんに手を添えられて包丁で切っている姿はとても微笑ましく感じられました。

この一年間で心も体も大きく成長した子ども達。毎回どのお母さんも笑顔で子どもと向き合い接している姿を見て私自身も大変勉強になりました。これからも笑顔を忘れずに楽しいぽぼクラブにしていきたいと思ひます。

子育て支援部 田中

(コーディネーター雑感...)

昨春、私のコーディネーターとしての活動がスタートしました。ハピネスひこねの業務に加え《ぽぼひろば》で高齢者の方や子ども達とかかわることも大切な役割でした。また、ボランティアの学生達と共に活動し、若者達のひたむきな思いを持ちながらエネルギーに活動する姿による刺激を受け、強力なパワーをもらいました。また、毎月発行の機関紙「ぽぼだより」の編集担当として作業に没頭し駆使しきれないパソコンとにらめっこをしたり...。ぽぼハウスの高齢者・児童各々の担当者会議へも参画し、ぽぼハウスの活動全体を見つめ、私なりに市民のニーズとNPO ぽぼハウスのミッションに応じたより良い活動とは?を探ってきました。外部の研修会や勉強会でほかの市民活動団体やNPO 団体と交流する機会もあり、NPOで活動するには「気づきの重要性と先見性が必要である」ことを再確認しました。

一年間、コーディネーターとして活動し勉強させて頂いたことを今後に活かし、迷い悩む時にはこの一年を振り返りながら活動に精進します。私は「一寸千貫」という言葉を大切にしています。千貫の重みを支えるわずか一寸角の柱。NPO ぽぼハウスの仲間達は一寸角の柱です。千貫の重みを仲間達と共に支えている事を忘れず活動していきたいと思ひます。感謝の思いを常に隣に置いて...

コーディネーター 尾田